サークル：ちらりずむ
R18
バトルに負けたトライ的な彼女たち

修行目的で参加した
あるガンプラバトルの野良試合。
バトルに敗北したフミナは、
罠に嵌められて、
敗北のペナルティとして対戦相手に
服従することになってしまった。

「いやぁ、フミナちゃん可愛いねえ…
前々から目を付けてたんだよ」
「私を……どうしようっていうの？」
「負けたフミナちゃんには
俺達の奴隷になってもらうぜえ…？」
「くっ……あなた達の思い通りになんて
させないからっ…」

「そんなに邪険にしていいのかなぁ？」
ビクッ
「な…何を考えてるの？」
「これを見てもまだ強気でいられるかい？」
「え……う、嘘っ……」

アミナの目の前にいたのは、
全裸に剥かれ、枷で繋がれ、
ピストンバイブで責められる、
カミキ・ミライの姿だった。
そのクリトリスは
異常なほどに肥大し、
ピアスに繋がれ引き延ばされている。
同じく乳首にも施されたピアスが、
痙攣に合わせて淫らに揺れていた。

「ミライさん!? なんでこんな……」
「一週間前に君と同じ様にバトルで負けてね」
「ほら、凄いだろう? このクリトリス……」
がく
ガチャ
「うぶうう……」
ガチャ
がく

「凄いのはクリだけじゃないんだよぉ…？」
くちっ
「このピストンバイブでかき回してあげるとね…」
ビクッ
「（やっ……やめっ…）」
「（これ以上それをされたらっ…）」

「ほーら、スイッチオーン」
ビクン
ドチュ
ドチュ
ドチュ
ビクン
「おごっ……！」

プシッ
ゴゴ
ゴゴ
ドイド
ドイド
「あ…あんな激しく…壊れちゃう……」
プシャッ
「おごっ！」
がく
がく
「おぶっ…！」
「おおっ…！」
がく
「（私、死ぬっ…死んじゃうっ…）」

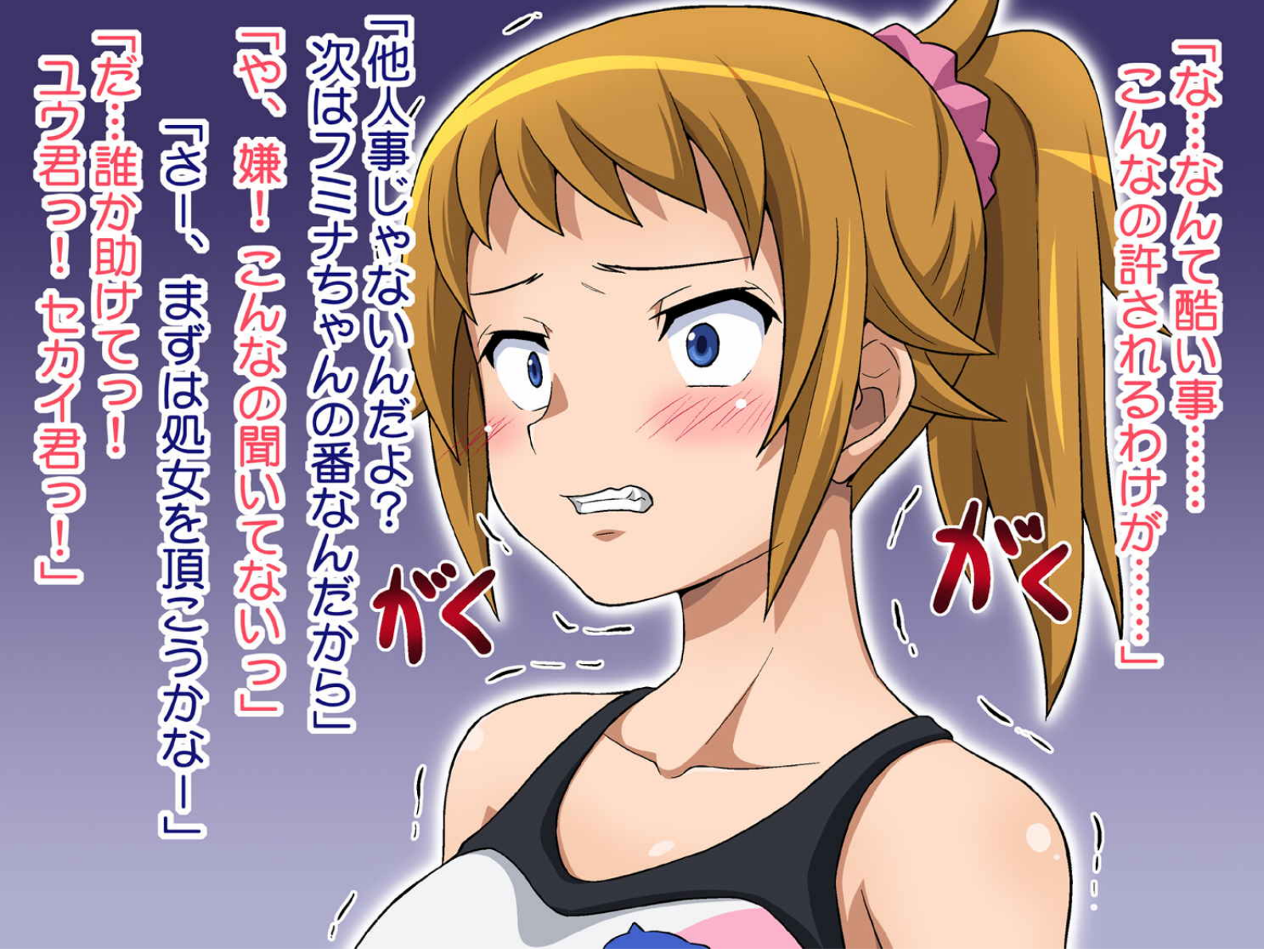
「あー、気絶しちゃったか…
クリちょっと切れちゃったかな？」
ビクッ
ビクッ
ビクッ
「お…おおっ…」
「おっ…」
「おぼっ…」
「まだまだ調教が
必要だなあ…こいつも」
ビクッ
ドロッ
ギチッ

続いて通された部屋には、
同じくフミナの見覚えのある
少女が拘束され、
過激な調教を受けていた。
ミライと同じく
クリトリスは肥大し、
天井から
吊り上げられている。
小陰唇には４つのピアス。
そして秘部からは
子宮口がはみ出していた。

「シ…シアさんまで……」
「なんだ知り合いだったの？」
「イっ……もぉ…許しっ……」
「さー、シアちゃん、ブラッシングの時間だよー」
ビクッ
ギリ
ビクッ
ビクッ
スッ

「ギャアアアアッ！」
「ほーれ、キレイにしてあげるよぉ？」
ビクン
ビクン
ビクン
ジョリ
ジョリ
ジョリ
ジョリ
ギュイイィ
ギュイイィ
「らめらめらめらぁああ・あッ！」
「暴れるとクリちぎれちゃうよー？」
「ヒギイイィアアアアアアッ！」

「ははっ…いい歳しておもらしか？」
「あ…おごっ…」
「気絶するとクリチ切れるぞー」
「お……ほぉっ…」
「もぉ…許し…」
「助け…兄さん…セカイ……」
「また汚れちゃったなぁ一向にブラッシング終わらないよ？」
ビクッ
ギリ
ギリ
ビクッ
ビクッ
チョロロロ
ゴポッ


「な…なんて酷い事……こんなの許されるわけが……」
がく
がく
「他人事じゃないんだよ？次はフミナちゃんの番なんだから」
「や、嫌！こんなの聞いてないっ」
「さー、まずは処女を頂こうかなー」
「だ…誰か助けてっ！ユウ君っ！セカイ君っ！」

スパッツとパンツを
はぎ取られ、
両足を大きく広げた
屈辱的な格好で
拘束されるフミナ。
その秘裂に媚薬を
塗りこまれ、
恥辱と恐怖におののく
少女の恥部からは、
しっとりと愛液が
滲み出していた。

ビクッ
「いい格好だねぇ フミナちゃん……」
「ああ…嫌…」
「力が… 入らない…」
「それにしてもいい体 してるな」
ガク
ガク
ガク
「とてもじゃないが 生には見えないよ」
「やだ、見ないでよぉっ…」
トロッ

「あっぎいいいい・いッ!?」
「うおっ、きっつ!」
「さすが女子[illegible]生、いい締まり具合だ」
「痛い痛い痛いッ! 抜いてええええっ!」
「気持ちよくなるまでやってやるから安心しろよ」
「ヒギィィィィィィッ!」
ギリッ
ビクッ
ブニッ
メリ
メリッ

「そーら、膣内出し一発目だ」
「あがッッ!?」
「熱ッ……!」
ビクン
「はは、中に出されてイっちゃったのか？フミナちゃんは淫乱だなあw」
ビクー
ブッ
ビクンッ
「こんなの嘘よ……こんな……っ」

調教三日目。フミナの陰核は媚薬の投与で親指大にまで肥大していた。
たった三日の調教ですでに快楽漬けと言っていい感度である。

マングり返しの体勢で床に固定され、股間をさらけ出したフミナの身体を、男たちが容赦なく蹂躙する。

「ヒィっ…も、もう許してください……」
「ふふ、だいぶ従順になったなこいつも」
「今日も種付けしてやるよ」
「や、これ以上されたら私っ……壊れちゃうよっ…」
「クリも大きくなったなぁ」
がく
ビクッ
ビクッ
ビクッ
がく
くらっ
ひくっ
ビクッ
ビクッ

「あッがぁぁぁぁ・あ・あ・あぁっ!!」
「おらおら、しっかり締めろよ」
「やっ…」
ビクッ
「許しっ…」
「薬が足りねえのかな？」
ビクッ
「だ、駄目っ！ 薬はもう嫌ぁぁぁっ！」
ブチュ
ブチュ
ズッ
ズッ
ズッ

数時間後、媚薬注射とレイプで
ボロボロになったフミナの姿が、
そこにはあった。
クリトリスと乳首には真新しいピアス。
媚薬の大量摂取で、ピアッシングの度に
フミナは激しく絶頂したのだった。

「潮吹き絶頂三十回目ー。ちょっと壊れ気味かな？」
「うっ…出るっ…」
「おごっ」
ぐり
がく
ビクッ
「おっ」
ぐり
「おおっ」
ビクッ
「んおっ」
プシャアアア
ドプッ
びくん、
びくん、
「さすがにピアスやりすぎたかな？」

僅か一週間で、精神崩壊の瀬戸際まで
追い詰められてしまったフミナ。

既にその瞳に力はなく、
かつてのはつらつとした
元気少女の面影は、
ほとんど残っていない。

しかし男たちは
調教の手を全く緩めず、
拘束したフミナの股間を
ピストンバイブで責め立てる。

「ああ…」
「なんか反応鈍くなってきちゃったなぁ」
がく
「それ…らめ…」
がく
「そろそろ壊しちゃってもいいんじゃないか？十分堪能したし」
「よーし…フミナちゃん、覚悟しろよー」
「もぉ許して…」
「わらひ……死んじゃう……」
ひくっ
ひくっ
ズッ
ビクッ

「がっ！」
ビクッ
「よーしこっからはブっ壊す気で調教してやるぜ」
「これ嫌ぁぁぁぁッ！」
ビクッ
「そらそら子宮叩かれてイきまくれ、マゾ女子[illegible]生！」
ドチュッ
「イくイくイくイくイッ……！」
「おぁ・あ・あ・あぁぁぁぁッ！！」
ドチュッ
ドチュッ
ドチュッ

『んほぉぉぉぉぉ・お・お・おッッ！』
がく
がく
ビクンッ
『まるで噴水だなw』
『ほーら電マでクリ責めだ』
ビクン
「遠慮なくイき狂え！」
ヴ
ヴ
ヴ
ヴ
ヴ
ブジュ
ブジュ
プシュッ
プシュッ
ドチュッ
ドチュッ
ドチュッ
ドチュッ
ドチュッ
「おっほぉぉぉぉぉぉッ……！」

激しい調教の末、フミナの心は一ヶ月もたず
完全に破壊されてしまった。
その後も彼女は男たちの性処理玩具に
されていた。
今彼女の腹は大きく膨れ上がっている。
凌辱の末に誰とも知れない子を孕んだのだ。
だが、子宮口のはみ出た少女の身体が
出産に耐えられるのかどうか……。

「この身体でよく孕んだよなー。前の穴、ボロボロなのにw」
がく「おーっ…」ビクッ
「ふー…」ビクッ
「子宮口飛び出してるんだぜ？どうなってんだ」
「は…」
がく「おーっ…」ビクッ
「は…」ビクッ
「は…」
「やっぱ若さかねえ」
「ま、妊娠してようが関係ないけどなw」
ゴポ

「あぎッッ!?」
ビクンッ
「おや、まさか?」
ズクンッ

「あッぎゃぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ・ぁぁ・ぁぁ・ぁッ！！！」
あざ笑う男達の目の前で
凄まじい絶叫を上げて
全身を震わせるフミナ。
少女の秘部を食い破る勢いで
ソレは彼女の股間から
男達の前に這い出した。